

あれから 314 年



中央義士会報

創立明治 41 年

令和元年 11 月発行 No71

令和元年 12 月 14 日発売 寺坂吉右衛門最終章

寺坂吉右衛門の全てがわかる決定版です。
寺坂逃亡説に、この書をもって判決を下します。

1 冊 2000 円 送料 350 円
10 冊以上の場合、1 冊あたり 1700 円です。送料は無料。

残部 200 部

お申し込みはお早めに郵便局から下記口座へ。通信欄に「寺坂吉右衛門申し込み」と部数をご記入下さい。

中央義士会 00250-9-139100

年譜忠臣蔵 改訂版

昨年刊行しました、年譜忠臣蔵の改訂版です。第 1 刷に多数の誤植があり、皆様におわび申し上げます。
江戸時代から現代までの忠臣蔵に関する出来事を一冊にまとめました。

令和元年 12 月 14 日 2 刷発売

1 冊 1500 円 + 送料 300 円
10 冊以上の場合 1 冊 1200 円 送料無料

お申し込みは郵便局から下記口座へ。通信欄に「年譜忠臣蔵申し込み」と部数をご記入下さい。

中央義士会 00250-9-139100

目次

・ 寺坂吉右衛門最終章 年譜忠臣蔵	1
・ NHK番組に対する抗議	2
・ NHK番組よみがえる江戸城への意見	3
・ 非実証的歴史学の論述に対する批判の意義	7
・ 萩原 栄	3
・ 向野正弘	7
・ 業務報告・編集後記	16
・ 泉岳寺四十二世 50 回忌報告	10
・ 第十七回忠臣蔵博士試験問題	12
・ 自由広告・新入会員	15
・ 中島康夫	12
・ 富岡 克	10

N H K 番組に対する抗議

平成24年1月4日NHKBSプレミアム放送「ザ・プレミアムよみがえる江戸城」の番組中、松之廊下事件検証部分について、抗議いたします。

- (1) 松之廊下事件の唯一の証拠になる古文書「梶川氏日記」を大きく読み違えたことにより、この事件の検証部分全てに大きな誤認を生じていること。
- (2) この検証を依頼したプロデューサーが、東京大学教授の読み違えを、そのまま鵜呑みにして番組を制作放映していること。史実的間違いが、全体（松之廊下部分）に及んでいる事。
- (3) 当番組中で、視聴者に見せた「梶川氏日記」は、梶川氏の写本の写しではなく、東京大学の職員が写したものであること。
- (4) 元禄14年3月14日の天候が「隆光日記」や「易水連袂録」により単純に明らかにされているにもかかわらず、わざわざ帝京大学教授に依頼して、余分な手数と余分な時間、経費を掛けて制作していること。
- (5) 勅使饗応役の責任者を間違えていること。
- (6) その他、数々の間違いを25分間タレントをまじえての説明が、全項目が史実と違う内容をそのまま放映していること。
- (7) 当該放映の間違いに気づき直ぐに抗議をしたにも関わらず、現在に至るも解答がないこと。
(平成26年2月20日再放送番組に対して、平成26年2月26日にFAX。返答がないため平成26年4月16日郵送。いずれも荻原名で送付)

以上の理由により、強く抗議いたします。

尚、当該抗議は、単なる見解の相違とか私見を主張するものではなく、完全にNHKプロデューサーと東京大学教授の間違いに対して抗議するものです。

当抗議に対して、当方としては、史料を揃えて万全の説明ができるよう用意しております。また、本抗議につきまして、今日まで遅れましたのは、(7)で記載しました昨年以来の抗議に対してのNHKの無視が原因によるものですので、ご了承下さい。

上記の件につき、お呼びいただければ私共は、NHKに説明に参ります。

又、このまま何年たっても無回答でおりまして、お答えをいただくまで我々は発信し続けますのでその旨ご了承下さい。

平成27年5月9日
NPO法人 忠臣蔵倶楽部
代表 中島康夫
(発表した当時の日付のまま)

NHK番組「よみがえる江戸城」への意見

平成26年1月4日に放送され、また2月20日と平成27年になって再度、貴BS放送で、放映された「よみがえる江戸城」における「松之廊下事件の検証」についての意見

貴BS放送で、放映されました「よみがえる江戸城」における「松之廊下事件の検証」につきまして、以下に意見を述べたいと思います。なお、文中、放送内容について記述した部分がありますが、記憶を元としているため、番組中で使われた言葉でない場合があるかとは思いますが、ご容赦下さい。

平成26年2月20日のBS NHKにおいて「よみがえる江戸城」という番組が放送された。その番組の中で松之廊下事件が検証された。

番組中、「梶川氏日記」が紹介され、また東京大学教授が出演されたため、「梶川氏日記」を元にした、史実に基づいた検証が行われるものと期待していたが、内容は全く「梶川氏日記」を無視しているのみならず、でたらめなものであった。

(1) 松之廊下の明るさについて

そもそも、中庭側の柱の間は通常敷居が2本で無ら戸2枚と障子1枚が入っているものであり、それを天候により取り外していたのである。

まず、番組では、松之廊下は中庭側の板戸（無ら戸2枚）、ふすまが閉められたままで、わずかな明かり取りからの光が入るのみ（当日の天気は曇り）で、暗かった、とのこと。

しかし、梶川與惣兵衛はその日記の中で、障子（江戸時代の障子は今のふすまと同じ意味で使われ、明かり取りにはならない）が開いていた、と書いており、またその開いている所を通ってもいるのである。

だいたい、勅使が既に休息の間に入っており、儀式を待つための待合室の機能も持っていた松之廊下において、板戸で外の光を遮る必要はないのに、どのような理由でここまで暗くしているのか説明を願いたい。

(2) 儀式の責任者について

次に吉良上野介がこの儀式の責任者であり、浅野内匠頭はその補佐役であったとナレーションは言う。

だれがこの番組の監修をしたのか知らないが、江戸時代の常識を知らない人間がよく監修したものだと逆に感心してしまう。浅野内匠頭の勅使饗応役は老中から命令された大名の課役の一つで、元禄14年2月4日に拝命を請けている事実がある。この儀式の費用も出し、責任も負うこの儀式の責任者なのである。吉良上野介は細かく決まり事のある儀式の内容を教える、単なる差し添え役で、逆に吉良上野介が浅野内匠頭の補佐役といってもよい役割なのである。

(3) 朝9時から松之廊下にずっといたとの話

さらに朝9時から事件のあった11時まで、吉良上野介は松之廊下にずっと座りっぱなしで、梶川与惣兵衛が吉良上野介に用事で松之廊下へ来て、上野介を呼んだ。

と、これまた嘘の連発。日記を正しく読んでからこのような番組は作ってもらいたい。梶川与惣兵衛が松之廊下に来たときには、吉良上野介はそこにいなかったのである。まず坊主に吉良上野介を呼んでくるよう頼んだが、吉良上野介は老中の部屋へ行って、いないと言われている。そこで、近くに浅野内匠頭がいたので、内匠頭を呼びに行ってもらい、内匠頭に、自分は本日、御台鷹司信子の代理の使者を務めるため、諸事よろしくお願いたしますと、話をしている。浅野内匠頭が元の席に戻った時に、吉良上野介は白書院側の杉戸の方から松之廊下に入ってきたのである。そこで、梶川与惣兵衛は再度吉良上野介を呼びにやるのである。このことは、梶川氏日記にしっかり書かれている。

(4) 吉良上野介が浅野内匠頭の前を通過して、梶川与惣兵衛と会ったとのことについて

さらに梶川与惣兵衛に呼ばれた吉良上野介は、座っている浅野内匠頭の前を通り、松之廊下の端で、梶川与惣兵衛と会い、立ち話をしたとのこと。

梶川与惣兵衛から吉良上野介の位置まで、およそ16間(約32m)あった。そこで梶川与惣兵衛は坊主に吉良上野介を呼びにやると同時に、自ら、吉良上野介と会うため、廊下の中庭側の板縁を通り、縁側の方から松之廊下に入ったのである。そして、角柱から6,7間の所で、吉良上野介と落ち合ったのである。梶川与惣兵衛は、浅野内匠頭の後ろの縁側を通り、そこを過ぎて、吉良上野介と会ったのである。当然、吉良上野介は浅野内匠頭の前など通ってはいない。

(5) 斬りかかった小さ刀の長さが30cmということ

長さ30cmの短い竹刀を持ち出して、何名かの剣道家に切りつけた場面を再現させている。

吉良上野介に気づかれずに、短い30cmの刀で斬りかかるにはどこまで近づく必要があるのかを検証するために、無駄な予算を使って人を動かしたものである。儀式用に差す刀は「小さ刀」といって、脇差しより長く、太刀よりわずかに短い刀を1本差すのである。刃の長さは60cm以上はあるのである。短刀ではなく「小さ刀」である。どうして局側は内匠頭の「小さ刀」を「短刀」に替える必要があるのか説明を願いたい。

浅野内匠頭からすると、暗闇に紛れて吉良上野介に気づかれずに後ろに近づく必要はなかったのである。

(6) 後ろから切りつけたこと

番組は、ひょっとしたら浅野内匠頭が後ろから切りつけたことを、なんとか形づけるために、吉良上野介をわざわざ浅野内匠頭の前を通らせ、内匠頭に後姿を見せるようにさせたのではないか。これは無理強いというものである。浅野内匠頭は、勅使が休息している部屋を向いて廊下の中庭側に座っていた。中央義士会が提出する図を参照されたい。その

位置から見ると、梶川與惣兵衛は1, 2間離れた右手前方に後ろ姿を見せて立っている。吉良上野介は、梶川與惣兵衛と対面して立っている。

梶川與惣兵衛は吉良上野介に、儀式の時、自分の番がきたら呼んでくれるよう、浅野内匠頭に依頼した旨を上野介に話した。そこで、吉良上野介は自分の左手後方に座っている大勢の高家衆に向かって、身体を半回転させ（この時点で梶川と内匠頭からすると、吉良は背中を見せて後ろ向きになる）そのようなことを浅野内匠頭に頼んでも、田舎侍は失敗するだけだ、と、浅野内匠頭をなじる言葉を発したのである。侍、しかも浅野家の殿様にとって、人前でなじられることは、死と同じなのである。浅野内匠頭はその言葉でカッとなり、思わず刀を抜いて斬りかかってしまったのである。吉良上野介は、高家衆の方を向いていたので、浅野内匠頭と梶川與惣兵衛から見ると、後ろ向きになる。浅野内匠頭は声をかけて吉良上野介の後ろから切りつけたが、その声で吉良上野介が振り向いたところを刀が振り下ろされた。刀は振り向いた吉良上野介の眉間を切った。吉良上野介は、前方、つまり梶川與惣兵衛の方に逃げた。そこへ浅野内匠頭がまた切りつけた。刀は逃げる吉良上野介の後ろから肩口を切った。さらに吉良上野介は逃げようとしたが、長袴を履いているため、うまく動けず前のめりに倒れた。浅野内匠頭はさらに2度切りつけたが、自分も長袴のためうまく動けず、刀は空を切ったのである。

この場面は、梶川氏日記だけでなく、吉良上野介を治療した栗崎道有の記録「金瘡部」並びに、室鳩巢の「赤穂義人録」を参照する必要がある。これによって、一撃目は額で、二撃目が肩口であることがわかる。

(7) 梶川與惣兵衛が後ろから浅野内匠頭を羽交い締めには抱き留めたこと

番組では、浅野内匠頭を梶川與惣兵衛は後ろから羽交い締めにしてはいたが、立ち位置からするとそのようなことは不可能である。

梶川與惣兵衛から見ると浅野内匠頭は、左手前方の位置にいたのである。梶川與惣兵衛はとっさに、浅野内匠頭の刀をもった手を掴んだ。そのため浅野内匠頭の刀の鍔が、自分の片手に当たったが、そのまま梶川與惣兵衛は浅野内匠頭を組倒して、押さえつけたと、日記で証言している。

上記の説明は、何よりも「梶川氏日記」に眼を通せばわかることである。内匠頭の「小さ刀」を取り上げたのは梶川であり、「はがいじめ」だと両手がふさがり「小さ刀」は取り上げられない。梶川が「小さ刀」を取り上げ、表坊主の関久和に渡した事は「梶川氏日記」に書かれてある。

(8) 東大史料編纂所の「梶川氏日記」について

これは余分なことだが、番組中、東大史料編纂所の「梶川氏日記」を画面に出したが、あれは明治以降になって東大が、国会図書館の本（丁未雑記）を写した写本である。このような番組で使う場合は、元の国会図書館の本を使うべきである。

ざっと気づいたところだけでもこれだけある。

研究者が認めている一級史料を無視して、創作したものをNHKが流してはいけないの

である。この「松之廊下事件の検証」内容は一つの説にさえなっていない、単なる創作となっ
てしまっているのである。

番組自体は、江戸時代の史料を元に、江戸城内の姿をCGにより紹介する意義のあるも
のであったが、その中で、この松之廊下の部分（25分間）は、番組自体の信憑性に疑い
をもたせるものになってしまっている。

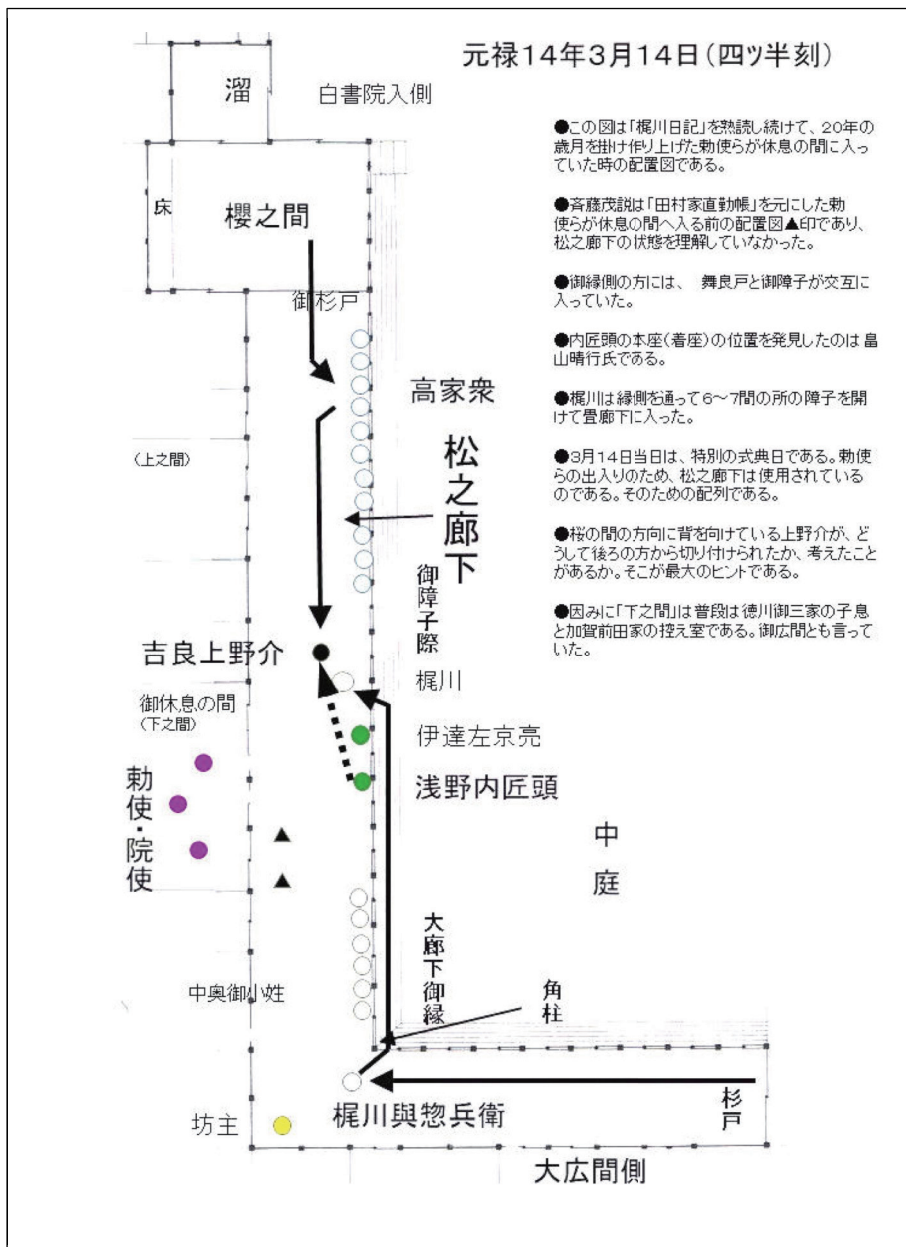
再度、史料に基づいた「松之廊下事件の検証」番組を制作し、放映していただくことを
望むものである。

平成26年2月26日

荻原 栄

なお、回答が必要な場合は、住所氏名を記載とのNHKの規定に従って、住所氏名を記載し
て意見書を送付しましたが、令和元年になってもまだ回答はいただいております。

下図はNPO法人会報平成29年6月第7号に載せた「松之廊下事件の配置図」。



「非実証的歴史学」の論述に対する批判の意義

ー井沢元彦著『逆説の日本史』に対するインターネット上の幾つかの批判ー
(本文は教育社会史史料研究会の了解の元に、教育社会史史料研究第14号から抜粋したものである)

井沢元彦氏の『逆説の日本史』は、週刊誌に連載され、広範な読者を獲得している人気シリーズとのことである。井沢氏は、本来、歴史ミステリー領域の作家で、歴史教育にも関心を寄せているようである。ただし本シリーズは、小説の範疇ではなく、歴史書の範疇で扱われているようである。本書に対して、インターネット上で極めて厳しい批判をされている方々がいる。ここでは、そうした批判の意義を検討して見たい。

1. 義士会の厳しい批判の意義

井沢氏の赤穂義士論に対する批判は極めて厳しい。特に中央義士会・全国義士会連合会は「逆説の日本史 忠臣蔵の謎」において、

井沢氏よ！貴殿が本ホームページの反論文を読んで、我々「義士派」に反論できるのなら、いつでも受けて立つ。しかし、貴殿はこの論争を避けるであろう。それは、貴殿が自分の稚拙さと元禄事件研究の無能さを知っているからである。己の未熟さをさらけ出すのももう程々にした方がよい。

2007年7月、出版社小学館より井沢元彦著「逆説の日本史（文治政治と忠臣蔵の謎）14」が出版されました。平成元年の「寺坂問題」以来の愚挙です。もっとも、その間にも「吉良上野介を弁護する」（文春新書）などという愚書が発刊されましたが、言論の自由とは……。今の日本は、高圧でへそ曲がりのどこぞの国よりよほど良い国です。

勉強不足の井沢氏が元禄事件研究の現状も知らずして、このような愚書が発刊することは、ただ単に、世の中を混乱させることと、己の無知無能をさらけ出しているだけです。井沢氏の「逆説の日本史」は全編荒唐無稽です。

元禄事件の研究も日進月歩。どんどん新しい史料が発見され、今や井沢元彦氏とか岳真也氏のどんくさい遅れた理論ではこの世界には通じなくなっております。

井沢氏は「逆説の日本史」の中で「忠臣蔵」は「デタラメだらけだ」と主張しておりますが、「でたらめ」なのは「逆説の日本史」の内容です。

もし不幸にして「逆説の日本史」をお買い求めになられたお客様がいらっしゃいましたら、内容はまったく信用できないものですので、賢明な皆様は騙されないで下さい。歴史書や史実書とはかけ離れた、史実に基づかない単なる主観的エッセーにすぎません。

と述べ、ここで「井沢氏よ！」と井沢氏に呼びかけ論争を挑む点に注目したい。そして、本書を「史実に基づかない単なる主観的エッセー」と論難する。それなのに、歴史書として売られ、あたかも史実であるかのように、世間で受け止められることを危惧し、世の中を混乱させるものだという。さらに、この批判で問題とするのは、井沢氏自身、稚拙さと無知とを認識していて、敢えて書いているということにあるようで、要するに悪質だということであろう。

義士会は、井沢氏に対してどのような論争を挑んだのであろうか。理事長 中島康夫「寺坂吉右衛門は陪臣か」を見てみよう。

井沢元彦氏の「逆説の日本史（忠臣蔵の謎）⑭」発刊を記念して、ピットマンコの四文字熟語がある。「滅茶苦茶」「支離滅裂」「荒唐無稽」である。

世に言う「汗牛充棟」といわれている義士書の中で、これほど著者の不勉強を提示している書が過去にあったらどうか。

おまけに著者は、古文書はおろか、その訳文すらよめないのである。その様な人間がどうして「忠臣蔵物」を書く資格があるのか。

また、その様な人間に古代から朝日新聞批判まで執筆させている出版社も朦朧としているのではないか。

お得意の小説ならともかく、恐れ多くも史実書の仮面を被って出版しているところが笑止千万である。

最初に申し上げておくが、「逆説の日本史（忠臣蔵の謎）⑭」（以下「逆説⑭」という）の忠臣蔵に関する論稿は、井沢氏のような考えもある、というのではなく、大きく間違っているだけである。そこに読者は騙されてはいけない。間違ったことを信じて生きるほどバカバカしいことはない。

井沢氏の「逆説⑭」が全体で三百八十万部も売れたと出版社は豪語するが、これは、世の中にはばい菌をまき散らしているだけなのだ。

そのことに読者は一日も早く気付くべきである。

厳しい言葉が並ぶ。特に厳しいのは「不勉強」というに尽きる。ここで厳しく指摘するのは「訳文すらよめない」としていることである。なぜそのようなことになるのか。さらに

「史料絶対主義」ではいけないのか

井沢氏は「史料を絶対視」し過ぎることは、かえって歴史の真相を見誤る結果を招くと主張する。

井沢氏の主張はよく理解できる。

ご自分の都合の良い資料ばかりを引き合いに出して、まるで高校生程度の主張をするあたり、余り高等な一級史料ばかりを引き合いに出されても、読む力も持ち合わせていないだろうから。

井沢氏の使用しているのは、史料ではなく、資料である。

そういえば、井沢氏はこの度の「逆説⑭」では、吉良上野介の悪行三昧を証明する史料を一つも出典していない。はて！

と述べる。あわせて考えてみると、「訳文すらよめない」ということは、井沢氏の論述手法の間

題より生起することのようである。つまり、井沢氏のイメージする定説があり、その「逆説」としての結論がある。その上で、井沢氏の歴史視点として重視する「言霊、和、怨霊、穢れ」などから史像を見直す。そして都合のよい史料で肉づける、という手法である。

歴史の授業としては、実はこの義士会の人達の怒りを含んだ反論の意義をどのように汲み取るかである。評者の見るところでは、赤穂義士の生き様は、その後の日本人に大きな示唆を与えたものである。そのことを大事にしている方々がいる。井沢氏の著述はどうか、そうした人々から見てどのように映じたかを考える必要があるだろう。

(2. は忠臣蔵と関係のない部分なので略す。)

3. 『逆説の日本史』に反論することの無力感

「書評忠臣蔵」(実名は公表されていないようなので、ここでは仮に「書評忠臣蔵氏」と称す)(注1)の「井沢元彦著『文事政治と忠臣蔵の謎』は、「ごあいさつ」において、井沢氏を「歴史修正主義」とし、歴史修正主義の立場から対応することを明示し、詳細に検討を加える。そして最後に

井沢手法は生き延びる！！

残念ながら、井沢手法は生き延びます。

私は、井沢氏より忠臣蔵の史料は論破しています。だから、井沢氏は、「忠臣蔵の史料を恣意的に扱っている」とか「忠臣蔵の基本的知識が欠如している」と指摘ができます。それが井沢氏とは思えない。

しかし、そのフィクションの結果、本が売れた。だから、史料を恣意的に扱い、基本的知識を欠如させたフィクションの方が金儲けにつながるということを悟り、その手法を駆使しているとしか思えないのです。

私は、井沢氏の忠臣蔵関係以外の本を買ったこともなければ、買うこともありません。

しかし、読んだとしても、残念ながら、井沢氏が他の『逆説の日本史』で取り扱っている分野に対しては、判断する材料も持ち合わせていません。だから、「なるほどそうか」となると思います。

多分、井沢氏は、忠臣蔵の手法を他の分野にも応用しているでしょう。ある定説を批判したり、否定的な文章をかき集めて、「デタラメだらけだ」と断定的に主張しているでしょう。

アンチで、断定的な手法には、我々庶民は弱いです。残念ながら、井沢的手法は生き延びるでしょう！！(井沢元彦著『文事政治と忠臣蔵の謎』(9))

と述べる。実証的な歴史学は、先行研究を踏まえて、一步でも前へ出ようと史料を踏まえて研鑽する。批判があれば、議論の応酬もある。しかし史料に基づかない歴史論述の場合は、史料に基づいて批判を加えても応えない。敢えて言えば、アカデミズムに身を置いても、こういう輩はいないわけではない。無力感が漂う。したがって、書評忠臣蔵氏のように弱音が出る。

義士会「逆説の日本史 忠臣蔵の謎」反論」は、

言論の自由とは何を書いてもよい、というものではない。発売する限りは、世の中に対する責任も持たねばならないのである。無責任なものは刊行しないという良心も自由も必要なのである。(荻原栄)「虚妄の「逆説の日本史 14 忠臣蔵の謎」」「まとめ」

と記す。義士会は先に「我々「義士派」に反論できるのなら、いつでも受けて立つ」と決意を表明した。しかし反論はなかったであろうし、すべて理解した上でやっていることなので、このように記しても反省するようなことはないだろう。



歴史教師の立場で考えると、インターネット上で反論していただくことは重要だと思う。職場の多忙化、教員育成・教員採用・職員研修における智の後退現象は如何ともし難い。歴史教師も誠意はあるのだが、図書館にも行けない状況では、頼りになるのはインターネットしかない。『逆説の日本史』に感化された歴史教師がいたとして、インターネットを検索して、少なくとも異論のあることを知ることができるというのは重要である。義士会の方々の反論は極めて重要であった。

相手の対応がどうであろうと、批判するべきを批判する。それは、「実証史学」に立脚する研究者の使命である。それぞれの専門領域の方がそれぞれの専門領域について批判しなければならない。そのことは大きな力になると思う。また該領域の研究を深化させることにもなるであろう。

教育社会史史料研究第14号

平成30年12月20日

教育社会史史料研究会 代表 向野正弘

注1) ここで「書評忠臣蔵氏」とは故有政一昭氏のこと。

総評：以上で一番肝心な事は、井沢氏が己の能力に気付かず古代から現代まで、史学をつもりで語っている持論である。全くの史学はずれで、各大学の史学の教授からすれば、窓の下に毛虫が居て動き回っているようなものである。その毛虫は毒粉を噴霧して、世の理論を腐らせようとしているだけである。その噴霧を手伝っているのが出版社である。また、一般社会にも脳の薄いのがいて、井沢氏のチンチク論に賛同してくる者もいる。結論は作家を名乗る方は、小説だけを書いていけばよいのである。史実を語る能力はないよ。もう一つ、試す方法がある。寺坂吉右衛門が陪臣と決めつけている方は、作家でも学者でも己の道を変えた方がよい。素質ないよ。

泉岳寺四十二世 祖天準爾大和尚

阿圓忌のご報告

富岡 克

令和元年六月二十八日に泉岳寺において、先代方丈準爾大和尚の五十回忌が行われました。ここに参列させていただきましたので、ご報告いたします。

参加者はお寺の関係者、檀家の代表の方々、それに私の三十名ほどでした。

本堂での法要は十四時から開始、三十名ほどの僧侶の方々により、おごそかなうちに法要が始まりました。その後、記念写真を撮り、墓地におもむき読経と焼香を行い、書院において精進落としが行われました。

先代方丈準爾大和尚は生前、井筒調策時代に当会の役員もなされており、当会とは深い関係にありました。



泉岳寺四十二世 祖天準爾大和尚 阿圓忌
令和元年六月二十八日

泉岳寺本堂において 6月28日
(筆者は前列左端)

創立111年記念

第17回忠臣蔵博士試験問題

[受験資格について]

- ・受験料は無料ですが、受験資格は会員に限ります。

[解答票の配布について]

- ・第17回忠臣蔵博士試験の解答票は、勉強会などで配布致します。別途必要な方は本部（FAX 048-973-3790）までご連絡下さい。FAXでお送りいたします。または、メールで中央義士会のメール（chuogishikai@tokyo.email.ne.jp）までご連絡下さい。折り返しメールでお送りいたします。

[解答票の送付]

- ・解答票は本部まで（FAX 048-973-3790）FAXで送付下さい。

[解答に際しての注意事項]

- ・試験問題の解答を調べるために、お電話等で各施設へ直接問い合わせることはおやめ下さい。
- ・同じく、会員同士でも試験のための連絡はおやめ下さい。特に申し上げたいのは、連絡しあっている方は、同じ答えで間違っているのですぐにわかります。
- ・問題をよく読んで、一言一言理解した上で、解答して下さい。問題を読み間違えないようお願い致します。ひっかけ問題がたくさん出題されています。
- ・文章での解答については、解答者が理解しているかを判断基準にさせていただきます。
- ・文章での解答については、要領を得ない場合は失点とします。
- ・解答がないと思われる場合は「なし」とだけ記入して下さい。
- ・文章を求める答えで、別紙を添付しても構いません。
- ・**最終提出日は、令和2年10月末日です。**

令和元年12月

第1問	忠臣蔵テレビ番組を制作される際、有名な歴史家も番組に関わりますが、どうして制作側は、中央義士会を有料で頼ってくるのでしょうか。
第2問	少なくとも、中央義士会会員は、テレビの歴史番組をそのまま受け入れるのではなく、テレビの裏側を見抜く力を付けましょう。そのためには、どうしたらよいとお考えですか。
第3問	公共放送で、国立大学指導で制作された歴史番組でも、全編史実的に間違えた番組を放映することがあります。国民にどのような影響があるのでしょうか。
第4問	元禄赤穂事件を「テロ」と発言するタレント・評論家・小説家があります。この発言が元禄事件の研究にどのような影響があるのでしょうか。
第5問	現在、日本をざっと見ても元禄事件の専門研究者が極端に少なくなっております。どうしたら研究人口が増えるのでしょうか。

第19問	討入り直前、義士の集合場所に老婆が一人立ち回っておりました。何のため、勢ぞろいした義士の中に老婆が一人混ざっていたのでしょうか。
第20問	「梶川筆記」なる写本といわれるものが、東京大学には、図書館に1冊、史料編纂所に1冊ありますが、どちらが信頼度が高いでしょうか。又、その理由を述べて下さい。
第21問	水間治部左衛門正藤は、元禄15年3月13日、山科において割腹自殺をしますが、なぜこのような悲劇が起こったのでしょうか。
第22問	中央義士会の新発見の発表を新解釈と思う方がおられますが、この正道から外れて、もう一本のレールを引こうと思っているように思われます。このような考えはどうして起こるのでしょうか。
第23問	大石内蔵助が切腹した当時の細川家下屋敷が、よく中屋敷と表記されている説明書が見受けられます。どうして、このような間違いが起こるのか説明して下さい。
第24問	「梶川筆記」に依ると、内匠頭の一刀目が「後」との記述により、背中のように思われております。一刀目は「後」か「前」なのかどちらと思われますか。
第25問	24問の答えの理由の説明を書いて下さい。
第26問	赤穂義士研究家の定義を述べて下さい。
第27問	よく「お清」という女性が小説やドラマで浅野家へ奉公した事になっておりますが、その事実はあるのでしょうか。説明して下さい。
第28問	吉良邸の隣の土屋家について、老中土屋相模守政直との関係を簡単に述べて下さい。
第29問	赤穂義士が討入り後、新大橋から二手に分かれて引揚げの計画だったことが書かれた資料を保有している所はどこでしょうか。
第30問	浅野梅堂の姿絵が残っていますが、どなたが描いたものでしょうか。

注意：・文章での解答が多いので、月一勉強会、水曜ゼミなどでなるべく解説をして参ります。勉強会の出席を第一と考えて頑張ってください。

- ・解答が的確でない場合、△印が付く場合がございます。△が2つで1点減点となります。
- ・問題そのものについてのご質問は幾つでも受け付けますので、何度でも聞いて下さい。


中央義士会
副理事長 富岡 克
東京都中央区在住

日蓮宗
法耀山 高光寺
赤穂市加里屋二八六一

祝 堀部安兵衛武庸生誕三五〇年祭
旅先の我が家
駅前竹内旅館
新潟県新発田市諏訪町1の2の1
電話 0254(22)2465

令和二年五月 堀部安兵衛武庸生誕三五〇年祭
「武庸会」
会長 嶋谷次郎八
越後新発田

中央義士会
理事 三輪 三郎
川崎市麻生区在住

 家紋「蛇の目」
中央義士会 勝田新左衛門子孫
評議員 勝田 芳造
東京都足立区在住

中央義士会
常務理事 荻原 栄
中央義士会のホームページは <http://www.chuushingura.net/> です。又は、中央義士会へ検索して下さい。

株式会社 メディカルオフィスベラ
代表取締役 武類 俊哉
取締役所長 武類 ますみ
東京都北区在住

地区
あわら市 一般
八王子市 一般
荒川区 一般
埼玉県 一般
別府市 一般
横浜市 一般

★新入会員紹介★(敬称略)

芳名
磯貝 一雄
蟹江 元
金子 功
高部 通子
中野 明良
山崎 光恵

寄付金のお願い

昨今の忠臣蔵への関心度が低くなり、若い人達の中には、大石内蔵助の名前さえ知らない方もいます。また、フェイクニュースによって、忠臣蔵の史実がゆがめられ、拡散される事態も生じております。

皆様のご寄附によって少しでも、史実の普及を目指していきたいと思っております。

寄附いただける方は、下記へご連絡下さい。または、郵便局から寄付金をお送り下さい。

連絡先 080-8908-1633
FAX 03-3630-1927
メール chuogishikai@tokyo.email.ne.jp

送金先 郵便局から青色の払込取扱票で下記へ
中央義士会 00250-9-139100

中央義士会
理事 進藤 務
東京都板橋区在住

平成31年 中央義士会 業務報告

担当 三輪三郎

年月日	項目	備考
H31. 1.13	第102回月一勉強会討ち入りはどのように瑤泉院に報告されたか	新橋中島理事長
H31. 1.20	旧細川邸(大石内蔵助ら終焉の地)清掃 12名参加	旧細川邸荻原常務理事
H31. 1.27	第24回忠臣蔵愛好会 赤穂義士引き揚げコースを歩く 47名参加	中島理事長
H31. 2.10	第103回月一勉強会 決算忠臣蔵	新橋中島理事長
H31. 3.10	浅野内匠頭319回忌 浅野内匠頭追善のつどい 泉岳寺	泉岳寺 中島理事長
H31. 3.27	旧細川邸の門扉新築工事	旧細川邸 港区
H31. 4. 6	第104回月一勉強会 1. 泉岳寺周辺の史跡巡り、2 高松桜まつり 20名参加	新橋中島理事長
H31. 4. 7	世田谷寿町調査	中島理事長
R 1. 5.12	第105回月一勉強会 現代精神科医の赤穂事件の見方	新橋 中島理事長
R 1. 5.26	令和元年度理事会	新橋生涯学習センター
R 1. 5. 2	第106回月一勉強会 赤穂浅野家の管理官・間瀬久太夫とその父子	新橋 中島理事長
R 1. 7. 7	第107回月一勉強会 「決闘・高田馬場」 中山安兵衛武庸	新橋 中島理事長
R 1. 7.23	西巢鴨妙行寺参詣 三好市花岡吉成氏案内	中島理事長
R 1. 8. 4	第108回月一勉強会 「大石内蔵助の脅迫状と三度の嘆願」	新橋 中島理事長
R 1. 9. 8	第109回月一勉強会 「討入りに対する吉良側の態度」	新橋 中島理事長
R 1.10. 3	滋賀県 甚三郎家訪問	中島理事長
R 1.10. 6	第110回月一勉強会 〈大石良雄、光興、尹隆の関係〉	新橋 中島理事長
R 1.10.18	テレビロケ 滋賀県 甚三郎家	中島理事長
R 1.10.19	第25回忠臣蔵愛好会 松之廊下跡(皇居東御苑)見学会 12名参加	中島理事長
R 1.10.20	元禄市申込み	中島理事長
R 1.10.26	忠臣蔵愛好会 新橋 浅野内匠頭切腹地を巡る	中島理事長
R 1.11. 2	忠臣蔵愛好会 築地 赤穂上屋敷跡を巡る	中島理事長
R 1.11.10	第111回月一勉強会 「大石内蔵助の武術と其の師奥村無我」	新橋 中島理事長
R 1.11.16	忠臣蔵愛好会 赤穂義士引き揚げルートを歩く 万年橋まで	中島理事長
R 1.11.23	忠臣蔵愛好会 赤穂義士碑は挙げルートを歩く 自訴の場まで	中島理事長
R 1.11.30	忠臣蔵愛好会 赤穂義士碑は挙げルートを歩く 泉岳寺まで	中島理事長
R 1.12. 7	忠臣蔵愛好会 大石内蔵助ら切腹の地	中島理事長
R 1.12.14	赤穂義士追憶の集い 泉岳寺	泉岳寺 中島理事長
R 1.12.14、 15	両国 元禄市	中島理事長、荻原常務理事その他

編集後記

つい先頃、台東区が避難問題で人を差別して、ニュースになりましたが、台東区は二十三区内で物の考え方が一番遅れている区です。行政・応対・知能全てが閉鎖的で、いつかはこのような問題が起こると思っておりました。自慢は「二十三区で寺が一番多い区」です。その通りで上野寛永寺の人々への対応は大寺院の割に、大変気持のよい対応をします。まずは、区長始め区の職員全員が、交代で寛永寺で修行して、それからお仕事に付かれた方が良いと思います。

建物も人の心も上に伸びない区「台東区」。役人は偉い、の精神は捨てましょう。殺人事件の多い区を改善するお気持ちがあるのですか。

区長様、どこを見ているのですか。千葉県知事の二の舞いを踏む、おつもりですか。

編集者 中島康夫(企画・編集・検証)
荻原 栄(編集) 三輪三郎(校正)
横山達也(校正)
エム・ショット(印刷)